



2021年3月26日

各位

会社名 株式会社 東邦銀行
 代表者名 取締役頭取 佐藤 稔
 (コード番号 8346 東証第一部)
 問合せ先
 責任者役職名 総合企画部長
 氏 名 田辺 直之
 T E L (024)523-3131

2021年3月期通期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

2021年3月26日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2020年11月13日に公表しました2021年3月期通期業績予想および配当予想について、下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期通期(2020年4月1日～2021年3月31日)業績予想の修正

(1) 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	58,600	5,600	3,100	12円29銭
今回修正予想(B)	57,700	△4,900	△5,200	△20円63銭
増減額(B-A)	△900	△10,500	△8,300	
増減率(%)	△1.5	—	—	
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	63,449	4,376	2,727	10円82銭

(2) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	50,400	4,800	2,800	11円10銭
今回修正予想(B)	49,400	△6,200	△6,000	△23円80銭
増減額(B-A)	△1,000	△11,000	△8,800	
増減率(%)	△2.0	—	—	
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	55,996	3,888	2,554	10円13銭

2. 配当予想の修正

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想	—	3円00銭	6円00銭
今回修正予想	—	2円00銭	5円00銭
当期実績	3円00銭	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	4円00銭	2円00銭	6円00銭

3. 修正の理由

(1) 業績予想

以下の理由により、2021年3月期通期の業績予想について下方修正するものです。

A. 信用コスト

コロナ禍により一部業種・企業において経済活動の抑制が継続しているなど、その影響を踏まえた十分な引当を実施し、信用コストが118億円（前回予想比+88億円）となる見込みとなりました。

B. 有価証券関係損益

金融市場の変動に耐えうる安定的な収益確保のため、有価証券ポートフォリオ再構築に向けた有価証券含み損の処理により株式等売却損を22億円計上し、有価証券関係損益が△17億円（前回予想比△12億円）となる見込みとなりました。

C. 固定資産減損損失

将来のデジタル化を見据えたチャネル戦略に基づく店舗再編の方針を決定し、固定資産減損損失が22億円（前回予想比+14億円）となる見込みとなりました。

東日本大震災から10年が経過し、新たな復興フェーズを迎える中、当行は「地域の復興」「地域の成長」への貢献を最大の使命としております。東日本大震災をはじめとした度重なる自然災害やコロナ禍の影響を受けている地域のお客さまをこれまで以上にしっかりと支援し、盤石な経営体制の構築に努めてまいります。

(2) 配当予想

当行は、銀行業務の公共性に鑑み、内部留保の充実による健全性の向上を図りながら、安定的な配当を継続することを基本方針としております。

当期末の配当予想につきましては、上記の基本方針と当期の収益状況を勘案し、誠に遺憾ではございますが、1株当たり2円（前回予想比△1円）とし、中間配当金3円と合わせ、年間5円（前回予想比△1円）とさせていただきます。

(ご参考)

2021年3月期通期個別業績予想

(単位：億円)

	前回予想 (A)	今回予想 (B)	差額 (B-A)
経常収益	504	494	△10
資金利益	332	322	△9
うち投資信託解約損(△)	0	8	+7
役務取引等利益	82	73	△8
その他業務利益	7	8	+1
経費(△)	330	327	△2
コア業務純益	91	77	△14
有価証券関係損益	△5	△17	△12
うち株式等売却損(△)	2	22	+20
信用コスト(△)	30	118	+88
その他臨時損益	△6	△3	+2
経常利益	48	△62	△110
特別損益	△9	△22	△13
うち固定資産減損損失(△)	7	22	+14
税引前当期純利益	39	△85	△125
税金費用(△)	10	△25	△36
当期純利益	28	△60	△88

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。